（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4773600061		
法人名	医療法人　フェニックス		
事業所名	グループホーム　オアシス		
所在地	沖縄県島尻郡南風原町新川452－1		
自己評価作成日	平成23年　7月22日	評価結果市町村受理日	平成23年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4773600061&SCD=320&PCD=47

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10－25 1階
訪問調査日	平成23年　8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、どこからでも緑豊かな景色が望め、広く明るく開放的な施設です。施設内においては、デイルームを中心に皆が集まりのんびり過ごすことのできるような雰囲気を作っています。日々の生活の中では、楽しみながら行えるような機能訓練・歩行訓練を日課に取り入れ実施しています。また、当法人の病院と同一敷地内にあり協力体制もあります。さらに地域自治会等とは合同での行事もあり交流を図っています。今後も利用者と共に助け合いながらその人らしい生活ができるよう支援していきたいです。

法人内敷地には当ホームの他、医療機関や複数の福祉事業所・施設があり、入居者の健康管理や災害時等の連携、協力関係を確保している。特に、医療連携は緊急時の対応や訪問看護師による24時間オンコール体制の他、災害時の法人内多種職員の連携や毎年度の訓練等の実施は、入居者や家族の安心や安全に繋げている。また、地域の自治会等との合同の祭りにも継続して取り組み、入居者の交流の機会を設けている。入居者や家族の意見、職員の提案等は、法人内各種委員会で把握し日常の生活活動に活かせるよう検討し取り組んでいる。夕食後以降に入居者の訴えが多く見られることへの配慮として、職員の配置を1人から2人体制にシフトを変更して対応している。ホーム独自の取り組みとして、職員は各業務（広報係、掲示係、整備係等）をローテーションしながら担当し、理念の「ちゅいしーじしーじ」を実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と共に理念の再検討を行い、新しい理念を作り上げた。常に職員全員が理念を意識し実践に向けて努力している。	ホームの実情に合わせ、「三つの理念とみんなの目標」を、職員間で提案し、話し合いをもって独自の理念にしている。職員は各役割業務をローテーションにしたり、外出の日程調整、地域や家族会等と協力しながら理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を招いての病院祭、地域合同の敬老会、盆踊りなどの行事もあり地域の方との交流を深めている。また、地域の施設などを利用することで交流の機会を図っている。	環境の杜エコフェスタや自治会と共催のふれあい祭り、清掃活動等、地域の行事を把握し、祭りには入居者もムームーや浴衣等で参加している。法人病院・院長が毎月「認知症」の勉強会を地域交流ホームで地域を対象に開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人院長による定期の認知症勉強会が行われており、地域や家族、介護従事者など全ての人を対象に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、ホームの運営状況、活動報告、日々の暮らしぶり等情報提供を行っている。また、各関係者からの意見・情報などを参考にしながらサービス向上に活かしている。	運営推進会議は町職員や地域代表の他、入居者や家族が交代しながら参加し、奇数月で開催している。会議ではホームから運営状況やサービス評価等を報告している。また、委員から外出の機会に「地域の拝所めぐり」の提案や災害時の停電への対応等について意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中での話し合いや介護相談員訪問等も活用しながら必要に応じて情報交換や相談を行っている。	町担当者は運営推進会議に参加し情報交換をしたり、法人内他事業所で実施している入居者等の作品展示会を町施設でも開催できないか提案している。職員は町窓口で入居待機者の情報や「老人福祉医療助成金」の適用範囲を確認し、「入居者のおむつ助成」等費用負担の軽減に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加やスタッフミーティングで勉強会を行う等により、身体拘束に関する理解を深め職員全員が身体拘束をしないよう心掛けてケアを行っている。	契約書やマニュアルで身体的拘束その他の行動制限の廃止について明示し、職員は認知症の勉強会の他、実践者研修にも参加しケアを学んでいる。家族から「転倒予防の為の行動制限」の意向があったが、機能訓練等の充実やADLの維持に努めることを説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	院外における研修への参加及び法人内での勉強会への参加を行い、虐待に関する理解を深め、共有意識を持つことで自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会などへの参加を行い、制度の理解や必要性について学ぶ機会を持っている。また、家族へ情報提供なども行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者が利用者、家族に重要事項説明書と利用契約書をもとに説明を行い、文書により同意を得ている。本人や家族の理解が得られるよう十分な説明を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見・要望を言いやすいよう日頃のコミュニケーションを大切にしている。また投書箱の設置や、介護相談員の受け入れを行っている。	入居者や家族は運営推進会議への参加を、意見や要望を表す機会にしている。例えば、家族は「外出の機会を多くもってほしい」と要望し、他の委員の「地域の拝所を外出先に」の提案に対し、「外出時のボランティアの協力」も伝えている。地域マップ（地域の拝所等が紹介）をホーム内に掲示し、職員は外出先の選択や情報等に活用している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期のミーティングや日々の業務内において職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、伝言ノートを活用し職員全員での意見・提案など共有を図っている。	職員の意見は毎月や随時のミーティングの他、伝言ノートを利用し把握している。職員個別の意見や相談にも対応し、内容によってはサービス向上（介護部門）委員会で検討している。例えば、接遇に関する意見は全職員で検討した結果、ケアの標語にして掲示し日々の振り返りに活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人理事における勤務等現場状況の把握が行われており、介護職員処遇改善交付金の利用による処遇改善の実施も行われている。各環境整備等についても、伺い書等で随時検討してもらうことも可。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に関しては法人内外の研修や勉強会などを受講できる機会を確保している。研修時の勤務調整を行い各種研修への参加を了解している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加入しており、管理者会議や研修会などを通して交流を図り、情報交換などを行いながらサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ詳しいアセスメントを行い、本人の思いを汲み取り、訴えの傾聴や声掛け、環境整備をする等の工夫や家族にも協力してもらい安心感が得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、事前面談、実態調査により家族の不安や要望などを聞き信頼関係を築き、希望や要望は出来るだけ取り入れられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の思いを確認しながら必要とされていることを把握し見極め、必要とされているサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の様々な場面で利用者から教えてもらうことも多い。利用者が自信をもてるような支援を心掛け、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの本人と家族との関係を大切にし、日頃から家族には本人の様子を報告し、情報を共有しながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週に1回教会への外出や、毎月馴染みの美容院への外出、年末には年賀状を書いたりと関係が途切れないよう支援している。	職員は入居者の馴染みの地域等を把握し、買い物先に選択したり、ドライブのコースに自宅や店舗周辺を入れながら支援している。入居者は毎週日曜日に家族と教会へ出かけたり、馴染みの理・美容室へは家族が支援している。入居者の希望は職員間で日程やコースを検討し対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者ひとりひとりの気持ちを大切にしながら利用者同士の橋渡しになれるように心掛けている。日々の日課活動を通じて利用者同士が関わり合い、困った時には助け合う等、自然に協力関係が出来ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、職員が面会に行き話し相手になるなど、本人の不安が少しでも軽減できるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の思いを汲み取り、本人本位の支援に努めいてる。また、家族から情報を得たり職員間で検討するなど常に本人が必要としていることを把握出来るよう努めている。	職員は2人の入居者を担当し、特技や嗜好品、就寝時間等も把握している。例えば、琴を演奏する入居者と踊りが好きな入居者を中心にレクの時間を設けたり、嗜好品のコーヒーの糖分をカット食品で代用しながら要望や思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など本人や家族から情報を集め、常に本人の思いを理解し安心して生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に関することは小さな事でも記録し、本人を理解する上での材料としている。業務に入る前には職員全員が必ず記録物に目を通すようにし、情報を共有しさらなる本人の現状の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当職員を配置し、担当職員と計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。その際には本人や家族が求めていること、ニーズに即したケアのあり方など職員全員の意見も反映しながら計画を作成している。	介護計画はケアカンファレンスで現状と経過に対する、今後の課題や結果（取り組み）等を職員間で検討し、記録を参考に入居者や家族に面談し意向を反映させ作成している。入居者の重なる空腹の訴えに対し、気分転換を図る為台所手伝い（下膳や食器洗い等）を計画に反映させているが、サービスの実施状況の確認には至っていない。	入居者の意向を反映させた計画になっているがサービスの実施状況が確認できないので、介護記録等で個別の計画にそったサービス実施状況が職員間で把握できるよう、様式等を含めて検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きや工夫があれば、申し送りや伝言ノートで情報の共有を行いケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々の状況に応じて、関係者で話し合いを持ち必要な支援があれば看護、介護部門を活用し柔軟な体制を整えている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターや広域連合からの情報を集め地域の行事などに参加したり、近隣の還元施設や社協の施設を利用している。また、町事業による老人福祉医療助成金制度など介護保険外の情報を家族へ伝えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と一緒にこれまでのかかりつけ医療機関への定期受診が出来ている。必要時には適切な医療が受けられるよう支援している。また、定期受診時の日程管理を行い、家族への連絡及びスムーズな受診が行えるよう支援している。	入居者は隣接する法人の認知症専門のかかりつけ医の他、馴染みの内科・皮膚科・眼科等へも家族と職員の協力を得ながら受診している。また、受診後の情報は業務日誌に記録し、申し送り等で職員間は共有している。入居者の健康管理等は法人医療機関や看護師等が連携し担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整えており、週2回訪問看護による健康状態、心身状態の把握、管理を行っている。状態の変化があった場合は、相談、助言、指示を仰ぐことが可能であり24時間利用者の健康管理、看護支援体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は職員が見舞いに行ったり、家族と連絡を取りながら本人の状態把握に努めている。また、病院関係者から情報を得たり相談を行いながら、職員全員で退院後の対応についての検討も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについては、医療連携における指針をもとに対応している。	ホームとしての重度化、終末期の指針が作成されており、訪問看護師の24時間オンコール、医療機関との連携等、支援体制が整えられている。事業所として提供可能なサービス内容について利用者、家族に説明し、状況変化に即した対応ができるよう、利用者や家族の意思を確認しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を身につけ緊急時にも対応できるよう救急法やAEDの勉強会などに参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を実施している。日中、夜間を想定し実際に利用者にも実践してもらい、職員は消火器や消火栓の使い方の講習を受けている。	避難訓練は年2回、消防署協力の総合訓練と夜間想定の自主訓練を実施している。訓練には医療機関や福祉施設の職員、警備員も参加し、入居者の車いす誘導等支援体制を確認している。また、災害時の消火設備（消火器・熱感知器・屋内消火栓等）の備え、水や缶詰等も備蓄している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとりひとりの人格を尊重し、常に本人の気持ちを大切にするように心掛けている。言葉使いや態度、表情などに気をつけて対応している。接遇、倫理の勉強会も実施しながら、 職員の意識を高めている。	職員は研修会において認知症の理解を深め、倫理や接遇についても学んでいる。、「ていねいなことばで共感介護」をモットーに壁に張り出し、尊厳を損なうような言葉かけや対応がないか、常に振り返りながらケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の思いや希望が表出できるよう働きかけ、本人に選んでもらう場面を作ったり、理解ができるように説明を繰り返すなどして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体での活動を行う中でも、本人のペースを大切にし、本人がしたい事を優先出来るように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこれまでの生活パターンを大切にし、好みの服を選んでもらったり化粧をしたり、定期的に馴染みの美容院へ行くなど、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ利用者の要望を取り入れながら献立を考えたり調理の工夫を行っている。食材準備や片付けにおいても出来る事を見出しながらお願いし、見守りながら一緒に行っている。	入居者の昼食は法人施設の配食を利用し、その他はホーム内で調理し職員と一緒に食卓を囲んでいる。入居者はホーム内での調理を希望しているが、ADL低下の予防リハビリの時間を確保する為配食を利用している。また、検食や年1回の嗜好調査を実施し、法人内栄養委員会で入居者の好みの献立が提供できるよう検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量チェック表にて、それぞれの摂取量を記載し把握してる。また、こまめに水分補給を行ったり、本人の体調や嗜好に合わせ、栄養バランスを考慮した支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄など、自分で行えるよう声かけや本人の状態に応じて誘導を行っている。また、ガーゼを使用し舌磨きを行うなど個々に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握している。トイレにて排泄ができるように、声かけ、誘導、必要時の介助を行っている。	入居者の排泄、行動チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツに移行する試み等トイレでの排泄の自立に向けた取り組みが行われている。失敗時は周りに気づかれないようそっとトイレやお風呂に誘導する等プライバシーへ配慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な野菜を毎日の献立に多く取り入れたり、こまめに水分補給を促している。また、薬に頼るだけではなく、運動で体を動かしたり、プルーンジュースやきなこ牛乳など便秘に効果のあると言われるものを利用して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の健康状態や希望を取り入れ、入りたい時間など確認しながら行っている。 入浴を拒む方には、声かけや対応の工夫をする等、本人が納得し気持ちよく入浴できるよう支援している。	入浴は隔日を基本としながら入居者の状況や希望に応じ、好みのシャンプーや石鹸、ローションの使用にも個別に対応している。同性介助を基本とし、体制上厳しい時は入居者に説明し理解を得て支援している。入浴拒否の場合は、「お風呂の後でお化粧しましょうね」等の声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠状況を把握しながら、出来るだけ日課活動への参加を促し、生活リズムを整えるよう努めている。夜間寝付けない方は、隣で寄り添い話をするなど、安心感を持ってもらうことで気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書（薬の処方、効能、副作用の説明）ファイルを活用し、職員全員が確認しながら正しく服薬出来るよう注意深く投薬してる。薬の変更時は、記録、申し送りを行い服用後は症状の変化など観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝いや掃除、洗濯物たたみ等、それぞれが好きなことや出来ることを役割とし、楽しみとして行っている。職員へ琴を教える方がいたり、魚の世話好きな方は、毎日餌やりを欠かさず日課としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月１回の野外レク以外にも、天気の良い日は散歩したり、近くの施設へ外出する等行っている。希望に添って外出の支援を行い、外出の機会を多くもてるよう家族への声かけも行っている。外出には消極的な方もいるが、気分転換を図れるよう支援している。	家族との教会への礼拝や、家族とレストランでの食事、「孫にドーナツを買って届けたい」等入居者の個別の希望にそって外出支援をしている。天気の良い日には敷地内を散歩し気分転換を図っている。ドライブで遠出して天ぷらを食べたり、他のホームとの交流会にも出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向を伺いながら、相談、確認しお金を所持してもらっている。買い物時には買いたい物を自分の財布から払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話でのやり取りができる環境である。また毎年、暑中見舞いや年賀状を送るなど以前からの習慣を続けられるよう支援ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度については不快を感じないように心掛け、共有空間においては雑音等に気をつけている。また、庭の植物や壁の掲示物など、季節感を感じられるよう工夫している。	玄関横には入居者と一緒に植えたゴーヤーやヘチマ、花の成長を眺めて過ごせるよう長椅子を配置している。広々とした廊下の壁には手すりが施され、入居者が歩行訓練に活用している。また、法人内安全対策委員会とともにホーム内や居室の危険個所を点検し、角ばりの解消や家具の配置等事故防止に向けて検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳間や食堂にはソファーを設置し思い思いに過ごせる環境がある。また、本人に確認をとりながら、利用者同士の関係性等を配慮し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、これまで本人が使い慣れたものや、好みの物を置いたり使用する等、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には、花や絵、家族写真等が入居者に合わせて飾られ、馴染みの時計やラジオ、CDデッキ、琴、寝具等を持ち込んでいる。共用空間から離れた居室を寂しがる入居者には、共用の畳間にベッドを移動する等で落ち着いて過ごせるよう配慮している。また、環境整備係を中心に清潔で居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	１人ひとりが自由に行動できるよう心掛けており、例えば歩くのが好きな方に対しては、廊下等の掲示の工夫をする等行っている。		